

日本赤十字九州国際看護大学施設設備整備基本計画

1. 目的

日本赤十字九州国際看護大学施設設備基本計画（以下「整備基本計画」という。）は、本学の理念・目的を実現するためのキャンパス空間の整備計画であり、5年ごとに策定する「日本赤十字九州国際看護大学中期計画」の基となるキャンパス全体の施設・設備・環境整備とその管理・運用の観点から、長期的視野を見据えた中長期的な整備目標達成のために策定するものである。

2. 位置づけ

整備基本計画の策定は、令和2年度に開学20年目を迎えるにあたり、施設設備の整備状況と現況を総括したうえで、大学を取り巻く状況の変化や課題を踏まえ、高度化・多様化する教育・研究活動に対応できるキャンパスの整備充実について、本学が目指す目標像としての基本方針を設定するものとする。

- (1) 土地・建物を有効活用し、長期的視野に基づき弾力的に保有施設を運用する。
- (2) 施設の点検・評価を定期的に行い、求められる教育・研究に対する施設整備を目指す。
- (3) 地域社会、地方自治体、産業界及び日本赤十字社施設との連携・協働が展開する開かれたキャンパスを目指す。
- (4) 災害に強く、安全・安心なキャンパス環境を目指す。
- (5) 地球環境にやさしいエコキャンパスを目指す。

3. 施設設備整備計画

(1) 既存施設の修繕計画

修繕工事とは、新築時に近づく様に既設の仕様で工事を行うことで、資産価値を回復することを目的とする。安全かつ快適な教育研究活動環境を継続して提供するためには、既存施設の維持管理が最も基本的に必要な条件の一つである。

日本赤十字社一般会計規程施行細則に定められている耐用年数は、鉄骨鉄筋コンクリート造または鉄筋コンクリート造の建物は50年、電気、給排水、冷暖房、エレベータ等の建物付属設備は8年から17年となっている。

本学の設備は耐用年数を経過し一部に経年劣化があるため修繕・更新が必要であるが、異常が確認されてから修繕等を行う事後保全ではなく、中長期的な計画の下、日常または定期的に建物や設備の状態や性能を把握し、劣化の有無や兆候の確認を行うことにより、不具合が発生する前に処置を行う予防保全を実施することが重要である。

今後早急に定期的な点検に加え、専門業者による調査を行うなどし「中長期修繕計画(案)」

の策定に着手する必要がある。中長期修繕計画（案）では、いつどのような修繕が必要で、修繕費がどの程度かかるのかを明確にし、資金計画を伴った実行力のある計画を目指す。

この計画に基づき予防保全を行うことにより、運営コストの低減に貢献するとともに、修繕に係る財源確保等の事前措置を講じ、予定外の高額な支出を抑制することによって、各年度の支出平準化を目指す。

(2) 既存施設の改修計画

改修工事とは修繕工事の目的と同時に、仕様をより良いものに変更する工事を行い、建物の資産価値の向上を目的とするものである。高度化・多様化する教育・研究活動に対応できるキャンパスの整備充実を推進するため、「中長期修繕計画（案）」策定時に以下の方策を計画する必要がある。

- ① 学生の主体的学習を促進するための履修指導やアクティブラーニングの拡充などの学習支援体制を強化できる環境の整備。
- ② 障害のある学生・教職員が不自由や不利を感じることなく教育や研究活動ができる環境を整備し、就学や修学支援を促す環境の充実。
- ③ 本学の第三次中期計画のビジョン“5. 健全な経営基盤に立つ成長する大学”に記載したサテライトキャンパスの整備について、本学との機能分化とその期待される効果、規模、費用対効果など、具体的な検討と実現可能な計画の策定。

(3) 情報環境の整備・拡充

現在、本学の基幹情報ネットワークは開学時に敷設したものであり、20年を経過しようとしている。その間、社会情勢や教育環境の変化に合わせて一部変更や拡充を行い対応してきた。しかし、教育研究活動は今後さらなる高度化が予想され、これに伴う大学業務はより一層の効率化・情報化が必要となる。情報化においては、近い将来のA I、I o T等との連携を見据えることが必須となり、またサイバー攻撃などによる情報の流出、システム障害等、情報セキュリティの信頼性が厳しく問われている。

本学の教育研究活動を支え、経営資源を有効活用するために情報基盤環境の整備・拡充は必要不可欠である。今後、I R機能の整備、I C Tを活用した双方向型授業や自主学習支援を推進するなどの「中長期情報環境整備計画（案）」の策定に早急に着手する必要がある。中長期情報環境整備計画（案）では、将来的なビッグデータ活用時代の到来を視野に入れ、通信の高速・広帯域化および耐障害性を向上させるとともに、効率性と安全性を担保する無線L A Nの充実を目指す。しかし、情報の基盤ネットワークシステムの整備のためには多額の資金が必要であり、提供するサービスと投資するコストの適切なバランスをとることが重要である。可能な限りランニングコストを抑え、合理的で快適な情報ネットワーク環境の構築を目指す。

(4) キャンパス・アメニティ

キャンパス・アメニティは、そこで活動する学生や教職員にとって快適で安全な施設を整備し、提供することである。

学生サービスの向上を図り、大学生活に対する学生の満足度を高めるうえで施設の充実は不可欠な要素の一つである。一般的な教育関連施設のほかに、食堂、コンビニエンスストア、課外活動向けの施設、学生交流や憩いの場としてのスペース、学生生活や一人の人間としての学生に配慮したスペースなどの確保、障害に配慮した施設設備の整備が重要であり、課題を明確にして「中長期修繕計画（案）」に課題の方策を計画する必要がある。

4. 点検・評価

「整備基本計画」「中長期修繕計画」「中長期情報環境整備計画」は、計画の進捗状況および教育研究活動環境、社会的要因、財政状況などについて定期的に点検・評価を行い、適切な運用・管理を目指す。